

3	2	0	0	4
---	---	---	---	---

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月10日
札幌市立北陽中学校

1 学校教育目標

考える人 ― 深く考え、積極的に学ぶ人

- ・自ら考え学ぶ生徒
- ・考えを深め課題を追求する生徒
- ・創造、工夫することを楽しめる生徒

きたえる人 ― 心情を豊かに育て、すこやかな身体をきたえる人

- ・困難に立ち向かうたくましい生徒
- ・苦勞を厭わない生徒
- ・心身の鍛錬に努力を惜しまない生徒

根気強い人 ― 使命と責任を自覚し、何事にも根気強く実行する人

- ・自覚を持ち責任ある行動をとる生徒
- ・自己実現に向け努力を惜しまない生徒
- ・けじめのある生活ができる生徒

助け合う人 ― 互いに人格を尊重し、進んでみんなのために努める人

- ・広い心で誰とでも分け隔てなく接する生徒
- ・積極的に発信できる生徒
- ・相手の身になって考えられる生徒

2 令和6年度の包括的重点

- ・これまで積み重ねた教育の知見を踏まえ、「学びの質を高める」教育活動を推進する。
- ・本校としての評価・評定の共通認識を深める。
- ・自分、他者の良さを認め、互いを尊重する心を育む教育活動を目指す。
- ・自己有用感が高められるような学校生活での関わりを目指す。
- ・多様性を理解し、個に応じた支援ならびに教育活動を推進する。
- ・不登校傾向の生徒や家庭への学校支援体制の構築を目指す。

3 学校経営の方針

多様な学びについて理解を深め、子ども一人一人を大切に作る学校づくり

- 1 「自分が大切にされている」、その家も大切にされている実感できるような学校づくり
- 2 生徒が生き生きと授業や諸活動に取り組み、多様な学びを通して成長できる学校づくり
- 3 全職員が、専門職としての自覚と誇りをもって教育活動ができる学校づくり
- 4 保護者、地域から信頼され、連携して生徒の学びを支援できる学校づくり

4 学校経営の重点

- 1 札幌市学校教育の重点及び学校教育目標の具現化をめざした教育課程の編成と実践
- 2 発達への支援と生徒理解を基盤とした、信頼関係のなかでの生徒指導体制の確立
- 3 実践力を高めるための研修の充実
- 4 教育環境の整備充実と効果的な活用
- 5 教員間の相互理解と信頼に基づく学年・学級経営の推進
- 6 家庭や地域に開かれた教育の充実と信頼される学校づくり
- 7 教職員が明るさと健康を保ちつつ力を発揮できるための業務改善の推進

(様式2)

5 自己評価結果

※自己評価結果：A…「十分である」 B…「おおむね十分である」 C…「不十分である」

※関係者評価：a…適切である b…どちらともいえない c…適切でない

	評価項目	自己評価	学校関係者評価		
		達成状況	改善の方向	適切さ 自己評価の	改善策の適 切さ
1 札幌市学校教育の重点及び学校教育目標の具現化をめざした教育課程の編成と実践	1. 「学びの質を高める」教育活動の推進 2. 課題探究的な学習を通し、主体的・対話的に考え、判断し、表現する授業 3. 「多様な学び」の推進 4. 食育・安全に関する指導・健やかな体に関する指導	A	1. 北陽祭の検討や指導と評価の一体化をめざした授業研修など、「学びの質を高める」教育活動を進める工夫を行った。来年度も教育課程編成の工夫や指導・評価の研修を継続していく。 2. 研修会を中心に各教科で課題探究的な学習についての研修を深めることができた。より実践的な研修を目指し、来年度も研修を継続していく。 3. 生徒の特性に応じた学習支援を特別支援教育コーディネーターを中心に推進した。来年度も継続していく。 4. 今年度はグラウンド改修や体育館照明改修があり、授業や部活動で大きな制約があったが、体育科の授業の他、学年体育大会の工夫などで健やかな体づくりを行った。次年度も給水関係工事等があるが、できることを工夫しながら取り組んでいく。	a	a
2 生徒指導体制の確立 生徒への支援と生徒理解を基盤とした、信頼関係の中での生徒指導体制の確立	1. 生徒理解、生徒指導の充実 2. 相談活動の充実 3. 豊かな人間性、社会性 4. 学校行事・部活動を通じた豊かな心の育成	A	1. 健康観察アプリやいじめアンケートの結果で把握した事柄について、いじめ防止推進委員会を中心に組織として対応することができた。今後もきめ細かい対応を心掛けていく。 2. 健康観察アプリの活用や教育相談期間を確保し相談活動に力を入れたことが効果的であった。今後も一人一人の悩みについて、丁寧に聴き取り相談していくことを大切にしたい。また、学習のサポート等は校内学びの支援委員会を中心に個々の生徒について考えることができた。今後も継続していきたい。 3. 4. 今年度は北陽祭を再編し2日日程とし、学校祭と合唱発表会の2本立てとした。また、球技大会や2学年のバレエ鑑賞等、体育的・体験的行事も取り入れることができた。行事や部活動を通し、様々な体験や経験を取り入れることで、豊かな心の育成に努めていきたい。	a	a
3 実践力の高めるための研修の充実	1. 学びの深まりを意識した授業づくり 2. 学習指導要領を踏まえた指導と評価、授業実践の研修 3. 特別支援教育の視点を踏まえた教育活動の研修	B	1. 2. 校内研修会で課題探究的な学習や評価について深めることができた。日常の授業実践で、より深い学びができるよう研修を続けていく。 3. 校内学びの支援委員会を中心に、個々の生徒の特性に応じた指導体制を構築することができた。今後も継続していく。	a	a

(様式2)

	評価項目	自己評価	学校関係者評価	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
		達成状況	改善の方向		
4 実と効果的な活用 教育環境の整備充	1. 安心・安全な施設・設備の維持管理 2. ICT 機器の適切な管理・効果的な活用	A	1. 今年度は LED 改修が終了し、給水改修が行われるなど、施設のリニューアルが行われている。これからも、安全に向けた日常の点検に努め、修繕を適宜進めていく。 2. Chromebook の活用も定着しており、授業における効果的な利用方法について研修を継続していく。生徒の SNS の利用を巡るトラブルが増えてきている。今後、ネットモラル等の指導が重要と考える。	a	a
5 級経営の推進 と信頼に基づく学年・学級間の相互理解	1. 学年間の連携 2. 互いに認め励ましあう集団を目指す学級経営	B	1. アンケート結果より、学校や生徒に関して情報共有が十分になされていない場面もあることが分かった。校務支援システム等を活用し、適宜、情報共有がされるようにしていく必要がある。 2. 今年度、生徒の自己有用感を高めることを中心に研修を推進し、行事を実施してきた。これからも、互いに認め励まし合う集団を目指した活動を行っていく。	a	a
6 実と信頼される学校づくり 家庭や地域に開かれた教育の充	1. 積極的・効果的・効率的な情報発信 2. 家庭や地域との連携 3. パートナー校との連携	B	1. 2. 学校 HP で活動の様子を掲載したり、メール配信機能を活用し保護者向けの案内文書を配布することも定着した。今後も、こまめな情報提供を行っていく。 3. コミュニティスクールの構築に向け、パートナー校との連携を進め、小中合同の研修会で教職員に説明を行ったが、コミュニティスクールの目的や活動についての教職員の理解はまだ十分とは言えない。コミュニティスクール構築に向け、今後も教職員はじめ、地域、保護者にも情報を発信し、進めていく。	a	a
教職員が明るさと健康を保ちつつ力を発揮できるための業務改善の推進	1. 働きやすい職場環境 2. 業務の見直しと効率化 3. 業務での ICT 機器の効果的な活用	B	1. 計画的に休養や検診が取れるよう、申告しやすい雰囲気づくりに努める。 2. 業務の見直しを進めることで、効率的に業務を推進できる体制を作る。 3. ICT 機器を活用し、業務の効率化を図る。	a	a
学校関係者評価者による意見	・全体的に肯定的な回答が多く、生徒と教職員との関係性が良好であることがうかがわれる。 ・コミュニティスクールの必要性について、社会が複雑化・多様化している環境の中で、生徒は本来大人が考えるべき課題も身に受けて通学している。学校には話せないが、地域の方となら本音を言えることもあるので、学校・保護者・地域が連携・協働していくことが必要である。また、制度の理解を深める取組を進めてほしい。 ・学習や進路、1人1台端末の使い方など保護者の不安に対応できるよう取組を進めてほしい。 ・教職員が計画的に休養・検診などの機会をもてる職場となるよう、更に取組を進めてほしい。				